

令和元年度 第10回西区自治協議会会議録

日時：令和2年1月28日（火）午後 3:00～

会場：西区役所健康センター棟3階 大会議室

< 1 開会 >

(下川会長)

それでは、新年初めての会合でございますので、紋切りでございますけれども、新年明けましておめでとうございます。皆さんも新年を健やかに過ごされたことと思います。振り返ってみますと、昨年は、大変、皆様のご協力により、進行その他がスムーズにいきました。改めてお礼を申し上げたいと思います。

さて今年は、ねずみ年ということもあって、本来ですと繁栄の年、発展の年ということが過去の例でございまして、あまりねずみ年には大きな災害もなかったということでございますので、その点では、今年はそういう年であってほしいと願っているところですが、早速、新型コロナウイルスで世の中が大騒ぎしております。もうグローバル、グローバルと言っているこの時代が、この新型コロナウイルスによって世界中を駆け回っているという、これが本当のグローバルかなということ、大変危惧をし、せっかく発展をしている日本の経済にも、大きな打撃が出てくるのではないかと心配しておりますし、もう早速、株式市場では、大変に暴落しています。そんなことがあって、この先行きがどうなるのか。中国という14億人もいる社会ですから、やはりこういうことが起きるとなかなかまとめることが難しいのだなということをつくづく分かります。

それはさておきまして、新年にあたって、また今年も1年間、皆様のご協力で地域課題に向けての活発な意見交換をくれぐれもよろしくお願いしたいと思います。それとあわせて、区長をはじめとする役所の皆さん方には、また新年、いろいろとご指導、ご鞭撻をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

そういうことで、これで私の新年のあいさつに代えさせてもらいたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、新年ですので、区長から一言ごあいさつ。

(区 長)

早いものでもう1か月が過ぎようとしておりますが、皆様、改めまして、明けましておめでとうございます。皆さんにおかれましては、健やかに新年をお迎えになられましたこととお慶び申し上げます。

まずもって、皆様方には、日ごろから協働の要といたしましての自治協議会委員といたしまして、実にさまざまな分野で西区の発展のため、ご助言、ご尽力、そしてご協力をたまわっておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、人口減少とともに、少子超高齢化が進みますなか、西区ではさまざまな事業に取り組んでおりますが、その中でも西区独自の取組みといたしまして、今年度から開始させていただきました二つの事業の進捗を今回、お時間を頂きまして、皆様方にご報告させていただきます。

一つ目は、「にしっこはぐくみLINK」でございます。これはご承知のとおり、子育て世帯と区役所がつながることで、子育てしやすい西区になるようにと無料通信アプリラインで子育て情報を配信しているものでございます。妊娠期から3歳未満の子育て中の方を対象に、子どもの成長に合わせた専門家監修のアドバイスや西区からのさまざまな情報を定期的にお届けいたしております。必要な情報が必要な人に届くことで、妊娠、育児の不安感や悩みの軽減につながっていると感じております。昨年の7月7日でございますが、この配信を開始して以来、利用者には大変好評でございまして、現在で約1,500の方にご利用いただいております。

二つ目は、「農福連携サポーター」でございます。本市では、労働力不足と言われます農業と障がいのある方の就労訓練先を求める福祉施設とのマッチングなどを行っておりますが、さらにその取組みも進めますため、西区独自に農福連携サポーターという制度を設けさせていただきました。これは、サポーターの方を農場へ派遣し、障がいのある方を見守り、作業をサポートするものでございます。昨年8月から開始いたしまして、昨年の12月末現在になりますが、46回、サポーターを派遣いたしまして、延べ138人の障がいのある方が農作業に従事されております。この制度をきっかけに、障がいのある方の就労や自立につながることを願っております。こうした区の事業のほか、地域の皆様方の取組みによりまして、安心安全で住みよい西区が進んでいると大変感謝いたしております。小さく見える一人ひとりの行動もつながることで大きな力となりまして、さまざまな地域課題の解決につながっているものと心より感謝いたしております。

人生が、100年時代を向かえますなか、区民の皆様がいつまでも健康で、安心して暮らせるまちづくりを目指しまして、職員一同、全力で本年も取り組んでまいりますので、本年もまたどうぞ皆様方のご協力をたまわりますよう、よろしく願い申し上げます。

今年の冬でございますが、一昨年と比較して、これまで雪が全く降りませんで安堵しているところでございますが、今ほど、会長からもお話しございましたとおり、世界的には新型コロナウイルスが、そして私ども身の回りではインフルエンザが猛威をふるいつつあるようでございますので、どうぞ皆様方にはくれぐれも健康にはご留意いただきますよう、よろしく願い申し上げます。

結びとなりますが、本年も引き続き、西区の発展のため、皆様方からのご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方にとりまして、本年が幸多いすばらしい年となりますことをご

祈念申し上げます、新年のあいさつとさせていただきます。どうぞ本年、区役所一同、職員一同よろしく願いいたします。

< 2 議事 (1) 部会の状況報告 (通常部会・特別部会) >

(下川会長)

早速、議事に入りたいと思います。部会の状況報告でございます。概要は、部会長から報告いたします。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、第1部会風間部会長より、よろしく願いいたします。

(風間委員)

第1部会の会議を報告いたします。所管分野が防犯・防災、自然環境、住環境等でございます。

令和元年度の第10回の会議は、去る1月9日午後3時から午後4時45分まで、西区役所4階対策室で行いました。出席者は、資料に記載のとおりでございます。この日は、多くの時間を勉強会に割きまして、約50分、一番最初に、市政さわやかトーク宅配便を資料として利用しまして、講師に本庁建築部の住環境政策課の方から来ていただきまして「他人事ではない空き家の話～みんなで考える空き家対策～」ということについて、勉強会をやりました。最初にまず、空き家の現状から始まりまして、皆さんだれもが空き家の所有者になる可能性があるというお話しから入りまして、空き家を放置した場合には、どのような問題があるか、どのような責任が生ずるか。相続等のことで住まいの引継ぎについて、空き家になった場合の活用方法。空き家を管理する方法として、セルフチェックシートほか、空き家特措法の概要について、最後に空き家に関する相談窓口。これを第1部会の皆様には、当日、資料をお配りしてありますが、第1部会以外の方には、当日、配付いただきましたA4判の横書きでカラーになっている27ページの資料が、今日、配付されていると思います。これも見ながら、お話を聞いていただければと思います。

(2) 新潟市の取り組みというところでご説明ありましたところによりますと、新潟市では、空き家の戸数が4万8,000になっておりまして、空き家率というパーセントでいきますと12.9パーセントと書いております。この空き家の数字ですが、一軒一軒カウントしたわけではなくて、あくまで推計値でありますということで、その中には、私も本業は不動産の賃貸管理なのですが、マンションや賃貸住宅用の空き家も数字にはカウントされているというお話でございました。

新潟市の取組みとしては、空家等対策計画と取組方針の策定について、空き家啓発パンフレットなどによる周知啓発から空き家無料相談会・セミナーの開催。これも年に一、二回やっていると聞いております。空き家の活用に関する支援事業、空き家活用リフォーム推進事業、あるいは地域提案型空き家活用事業、U I J支援にいがたすまいリフォーム助成事業等の紹介がありました。

裏面にいきまして、これはこの50分の勉強会の中で、委員から出ました意見でございます。それを二つ紹介してございます。一つは、空き家の流通事業（空き家バンク等）を設置してほしいという意見。行政の窓口でそのような専門の窓口をできれば常設の窓口として、1年を通してそういうものを設置することができないだろうかという委員のお話しでした。それに対して、新潟市の空き家対策で連携協定を締結している不動産団体にて、すでに空き家バンクを設置しているのです、お問い合わせがあった際には、そちらをご案内しているという説明がありました。

もう一つ、自治会に関係することですけれども、地域に所有者不明の空き家があって、自治会で困っているのを相談に乗ってほしいと。これはこの部会の後で後日、打ち合わせをしていただいて、対応していただきました。

議題2、令和2年度地域課題解決に向けた事業募集ということで、西区の宝サポート事業についての説明が事務局からありました。令和元年度の募集時にあった自治協議会と提案者の間で課題解決の手法に対するイメージにずれがあったという課題を解決するために、ここには具体的に書いておりませんが、昨年は募集に対して事業をやりたいという方からあった提案にずれがあったということなのです。管理不全の空き家にならないためということに対して、空き家の活用についての提案があったということで、その辺が少しずれていたと理解しております。こういう課題を解決するために、募集する事業テーマ、地域の担い手（自治会、民生委員・児童委員）等について、まずは自治協議会として期待する提案を委員の方から出し合っていたいただきました。その主な意見につきましては、そのこの三つほどありますので読み上げます。

自治会の担い手育成等については、単純ですけれども、やはり若い人から入っていただきたいといいますが、次世代についても、60歳以下の方、若手、次世代向けの地域活動参加を促すような仕掛けの提案及び実施という意見がございました。

それから、民生委員・児童委員の担い手育成等については、高齢者向けに、やりがいや楽しさを伝える方法の提案及び実施と。民生委員の場合は、原則として75歳が定年になるわけですけれども、定年を取っ払ったらどうかという意見もありました。

共通の意見としましては、世代交代が円滑に行える手法の提案及び実施と優良事例の収集及び周知という意見が出ました。

3番目のその他でございますが、記載のとおりでございますので、私のほうからは割愛させていただきます。報告は、以上でございます。

（下川会長）

ありがとうございました。ただいまの報告について、ご意見、ご質問がございましたら、お願いいたします。

(下川会長)

続いて、第2部会、寺瀬部会長よりよろしくお願ひいたします。

(寺瀬委員)

第2部会の会議概要を報告いたします。開催日時、会場、出席者等は記載のとおりです。ご覧ください。

1番、西区支えあいのしくみづくりの会議構成員の推薦についてというところでは、これまで第2部会の部会長が構成員になっていたということがあり、わたくし寺瀬が構成員として参加するということになりました。すでに1回目の会議が終わっております。

2番、令和2年度地域課題解決に向けた事業募集。～西区の宝サポート事業～について、まず事務局から説明があり、それから自治協議会として期待する提案を出し合いました。主な意見については、四角に囲まれてあるとおりです。現役の自治会役員や民生委員にアンケート調査を行い、そこから出てくるやりがいやスムーズな掘り起こしにつながる声掛けの事例など、現場の声をまとめた優良事例集の作成。二つ目には、若手、次世代、小中学生とその親世代が、地域の現状や課題を知り、地域理解につながるイベントの提案。三つ目、活動支援、負担軽減のための自治会資料の分かりやすいフォーマットの開発という声が出ておりました。

3番、令和2年度自治協議会提案事業、「支え合いの大切さを広める標語等の募集事業」について、事務局からこれまでの企画書案のたたき台について説明があり、その後、委員一人ひとりができる募集PRのアイデアについて意見交換を行いました。

4ページで、委員から出された主な意見は以下のとおりです。第2部会に参加されているそれぞれの委員が自分の立場だったら、こんなことができるよ、できるのではないかということを出していただきました。身近なところでは、子育て支援の場、保育園や子ども食堂などで声かけができる。地域では、コミュニティ協議会や自治会の会議、コンサートや盆踊りなど事業の際にチラシを配布する。地域の茶の間を行った際に、募集の呼びかけなどの時間を設ける。学校では、小学校長会や中学校長会を経由して、西区の小中学校へ周知をお願いしたい。学校からおたよりとして、子どもを通じて各家庭に配布、あるいはPTA総会などで説明が可能だと思うという話でした。大学では、授業やゼミで課題にすることが可能だという声。公民館や図書館等では、公民館で活動している川柳の会に依頼という方法がある。図書館で、支え合いをテーマにして、展示スペースがあるので、そんなところを利用してPR活動ができるという話がありました。西区全体では、区だより、区のホームページ、西区のフェイスブック、にしっこはぐくみLINKのタイムラインに掲載。そして、報道機関への依頼というような声が出ておりました。

4番のその他です。ここは報告の事項になりますので、報告は改めて報告する時間があるということですので割愛させていただきます。後ほど、報告させていただきます。次回の会議の相談をして、閉会となりました。

(下川会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、ご質問等はございませんでしょうか。続いて、第3部会、岩脇部会長よりしくをお願いします。

(岩脇委員)

第3部会の会議概要でございます。所管分野は、産業、区の魅力発信、交通等。開催日時、会場、出席者は割愛させていただきます。

主な議事1、令和2年度自治協議会提案事業、地域課題の解決に向けた事業募集～西区の宝サポート事業について。事務局より令和2年度地域課題解決のための事業募集～西区の宝サポート事業～企画案について説明がありました。令和元年度の募集時にあった、自治協議会等と提案者の間で課題解決の手法に対するイメージにずれがあったという課題解決をするためには、募集する事業テーマ「区の魅力発信・賑わい創出」について、これまでの審議を踏まえ検討し、区民が区の魅力を再認識・発見することにつながる取組みの提案と実施に関するものを募集提案といたしました。

2番、内野町の魅力について(内野まち歩きガイドの会太田和宏氏)、説明を受けました。具体的には、内野まち歩きガイドの内野町の成り立ちについて、地形や土地利用の観点から講義を頂き、内野町を発信していく際の視点を学びました。

3番目、新川の魅力について、(1) 新川開削の歴史について(越後新川まちおこしの会佐藤正人氏)、お話を頂きました。主な内容については越後新川まちおこしの会の佐藤さんより、新川開削の歴史について講義を頂き、新川は全国有数の米生産高を誇る西蒲原郡の美田の形づくりの重要な役割を担っているということで、その意義について理解を深めました。非常にいい内容で、私ども、初めて聞くような歴史的なことを聞きまして、非常にありがとうございました。

(2) 西区の宝サポート事業「西区の歴史・文化・技術の記憶を200年後の未来の人々へつなぐ～十返舎一九を案内人の新川開削物語の映像化」の進捗状況について、越後新川まちおこしの会加藤功さんから説明を受けました。採択団体の新川まちおこしの会の加藤さんから、1月をめぐりということでしたが、若干後れるということで、この事業についての上映会を令和2年2月15日(土)14時から内野まちづくりセンター3階ホールでいたします。

その他について、今回は令和2年2月7日の午後3時からということでございます。議題は、令和2年度の地域課題解決に向けた事業募集案について、意見を聞いてまとめたいと思っております。

(下川会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、ご質問はございませんでしょうか。続いて、アートフェスティバル特別部会の永吉部会長よりしくをお願いします。

(永吉委員)

西区自治協議会アートフェスティバル特別部会会議概要について説明させていただきます。所管分野は西区アートフェスティバルの企画・実施に関する事項となります。開催日時、会場、出席者に関しては、以下のとおりです。主な議事としましては、令和2年度西区アートフェスティバルについてということで、議論を進めました。スケジュール素案については、事務局より資料に基づき説明があった後、それに基づいて、例年どおりスケジュールに沿って進めるということで決定させていただきました。来年度の方向性については、前部会で出た意見を基に検討を行いました。次回部会でも、引き続き、検討を行いたいと思います。主な検討機会としては、以下のとおりです。

まず、音楽芸能団体発表に関しましては、出演団体数を2団体程度増やし、8から10団体にするとしております。1団体当たりの演奏時間を15分以内をベースに準備時間を考慮し、各団体に確認して決定するという形にさせていただいております。これに至った経緯としましては、団体によっては5分ほどで演奏が終わってしまう団体などもあるということで、その辺を演者のリクエストにこたえながら、効率よく団体数を増やしていこうという意図から、このような話になりました。開演時間としましては、今年度より少し早め、12時半開場で13時開演として、終了時間に関しては15時半まででどうかということで、進めております。またこの辺に関しては、決定ではないのですが、このような形で進めていきたいと考えております。

また、音届^{おとどけ}です。大学連携の部門に関しましては、午前の部として、大学と連携して、子どもを巻き込んだイベントなどを開催してはどうかとなっております。例としましては、楽器を作成するワークショップやワークショップに関連したコンサートの開催などの意見も出ております。大学の運営等にも時間が必要になりますので、大学のほうへも持ち帰っていただき、どのような形ができるかということで話し合っていたくということも含めて、話は進めさせていただいております。

アート展示に関しましては、新潟大学工学部の連携により、アート作品の展示が好評だったため、引き続き行うとさせていただいております。それ以外にもアート・ブリュット作品、小学生の自由研究の展示は、引き続き実施予定ということになっています。また、音楽と連携し、楽器作成のワークショップの開催はどうかというような意見がありますが、これに関しては、音届^{おとどけ}部門との連携をしながら進めていくというような形で、まだプランニングの段階で意見が出ているという状態です。

その他、次回の開催日時については、以下のように決まりましたので、ご報告は以上とします。

(下川会長)

ただいまの報告について、ご質問はございませんでしょうか。

< 3 報告（1）令和元年度西区自治協議会提案事業 地域課題解決に向けた事業募集

～西区の宝サポート事業～ 事業の進捗状況について>

（下川会長）

この議事からいくと2番目があるのですが、今の報告の続きになりますので、3、令和元年度西区自治協議会提案事業のほうへ進めさせていただきたいと思います。部会の概要など、適宜報告頂いているのですけれども、事業の様子やお知らせなどを含めて、改めて各部会長から進捗状況について、報告して頂きたいと思います。

はじめに寺瀬部会長、よろしいでしょうか。

（寺瀬委員）

本日、配付していただきました、西区宝サポート事業のカレンダーづくりのカラーの資料があります。これをご覧いただきながら、お聞きください。

このカレンダーづくりは、第1部会と第2部会の担当ということになっておりますが、私の住んでいる内野平和台自治会でカレンダーづくりの作業をしている関係で、私も参加しておりますので、第2部会からの報告とさせていただきます。現在、カレンダーづくりに取り組んでおり、第1回目は12月16日の作業でした。4自治会4名から見学に参加していただき、意見交換の時間も設けながら作業を進めました。会長、副会長等の仕事内容の洗い出し作業を通じて、こんなに活動しているのに、自治会の活動がなかなか知られていないよねという課題が見つかったり、カレンダーを通じて暮らしを支える活動を知ってもらおう。そう思うところにつながりました。このまちが好き。活動を参加する人を増やしたいという話になりました。どのような内容をカレンダーに掲載したいかデザインを話し合い、住民が参加したくなるような楽しさを全面に伝えたいというような意見が出されました。打ち合わせ終了後、話し合い作業をまとめた大洋紙を地域の茶の間に集まる皆さんにも見てもらえるようにと自治会管内に掲示しておきました。当日、参加していただいたほかの自治会の皆さんからも、意見を出してもらって、それも参考にさせていただいています。第2回は1月20日（月）の作業でした。2自治会3名から見学に参加していただき、カレンダーデザインや掲載する行事の確認を行いました。カレンダーには、楽しそうな行事の写真を掲載することとし、日曜始まりで二月を縦に並べたデザインにすること。消火栓や災害時の集合場所などを記した地図も掲載しようということになりました。今後の予定は、あと2月5日に校正作業を行い、2月末にはカレンダーの完成を予定しております。分かりやすいカレンダーができあがりそうで楽しみにしているところです。

もう一つ、プログラミング教育を通じた教育支援環境の構築と人財活用の事業の進捗状況です。これもカラーで写真が載っているのが、本日、配付されていますし、体験会のチラシも出ておりますので、これをご覧いただきながらお聞きいただきたいと思います。

まず、写真の載っているところをご覧くださいと思います。五十嵐小学校の小学生を対象とした課外講座です。5・6年生の約40名を対象に放課後の30分で全14回の体験会を行いました。分からないところを地域の大人、指導ボランティアの方が丁寧に教え、子どもたちは楽しそうにパソコンをのぞき込んでいました。

そして、②は保護者講座。新潟大学や公民館を会場に小学生とその保護者を対象とした保護者講座を計5回予定しております。課外講座と保護者講座では、体験の内容は同じ。

左上の写真、はじめにパソコンを使わずプログラミング的思考、手順の見える化を学びました。起きる、顔を洗う、着替える、ご飯を食べる、歯を磨く、日常的な手順の並びをゲーム感覚で並び替えていく様子です。右隣の写真、その後、パソコンを使ってゲームのキャラクターの動きを言葉で考える、手順を考える方法を学びました。指導ボランティアの方が分からないところを教えているところです。左下は、別室で子どもたちがプログラミングを活用した衝突回避運転支援システムの入った運転シミュレーターを体験しているところです。子どもたちが運転シミュレーターの体験をしている間、親にもゲームのキャラクターを動かすプログラミングの体験をしてもらいました。

一番下の右隣の写真は、マイクロビットを用いた講座の様子です。マイクロビットは、温度や傾き、明暗、東西南北など、方位が分かるようで、今回は明るさに応じてLEDの表示を変えるよう、プログラミングされていました。手をかざして暗くして、正しく動いているか確認している様子の写真です。参加者からは、とても楽しかったという子どもたちの声が多く聞かれましたし、親からもそんな声が聞かれました。ボランティアが分かりやすく教えてくれたという声や保護者は親も体験することで、学生時代に関数電卓にプログラムしたことを思い出した。難しそうだと思っていたが、体験できてよかった。また機会があれば参加したいといった好評の声が寄せられていました。今後の保護者講座のご案内です。2月15日、そして29日。15日は黒埼南部公民館、2月29日は内野まちづくりセンターで開催予定となっております。まだ、若干の余裕があるようですので、お申し込みいただければと思います。

成果は、学校や地域でプログラミング体験会を開催することで、保護者と児童、指導ボランティアとして活躍する地域住民の多世代交流を行っています。また、学び続けたいという需要の発掘、教えてみたいという人材の発掘により、この技術を通じた地域での支え合いのしくみづくりの構築を願っています。報告は以上です。

(下川会長)

ありがとうございました。何かご質問、その他ございませんでしょうか。

ないようですので、続いて、岩脇部会長から、西区の歴史・文化・技術の記憶を20年後の未来の人々へつなぐについて、報告をお願いいたします。

(岩脇委員)

皆さん方のところにこのチラシが入っていますよね。「新川開削ものがたり」も最後に説明させていただきます。

それでは、西区の魅力発信・賑わい創出のための取り組んでいる西区の歴史・文化・技術の記憶を200年後の未来の人々へつなぐ十返舎一九とたどる「新川開削ものがたり」の映像化の進捗状況を報告いたします。皆様にお配りしております、先ほど説明しました、チラシをご覧くださいと思います。

採択団体の越後新川まちおこしの会より、新川の開削200年を記念し、かつて内野に訪れた十返舎一九を案内人にして、新川開削の歴史をたどっていく映像の制作を進めていただいております。スタートは、新潟大学の正面ということで、この前、少し説明がありましたけれども、まだ完成しておりませんでした。完成は今月の予定となっております。完成した映像は、お配りしているチラシに記載されているとおり、上映会という形で区民をはじめとした多くの皆様にご覧をいただき、新川が担っている歴史的意義などを知っていただきたいと思っております。2月15日(土)14時から内野まちづくりセンターにて上映いたしますので、皆さんご都合のつく方は、見に来ていただきたいと思っております。私の感想ですがすばらしかった。ここまでやるとは思っていなかった。加藤さんはじめ、皆さん方一生懸命やっておられまして、物語風でスタートを切っておりましたので、非常に私ども自治協議会の委員も驚いていたと。こういうことで、内野の歴史というのは、歴史的には浅いけれども、新川の開削からものすごく発達して、料理屋や大工やいろいろ関係した人たちがまちの構築をしたということで、これはやはり西区において、私は宝に近いのではないかと考えて、赤塚もそうですけれども、これは歴史の一端でございますので、上映会は内野まちづくりセンターでやるということでございます。自治協議会の委員で希望があるのでしたら、参加者に記録映画は皆さんに見ていただいたほうがいいのではないかと思います。

最後に、先ほど言いましたプログラミングですか。その報告及び新川の提案事業、今回、すばらしいと私は感心しておりますので、佐藤さんどうもありがとうございました。佐藤さんのご説明も10分くらい熱入りまして、やっていただきましたけれども、非常に詳しく歴史をやっていただきましたので、どうもありがとうございました。

(下川会長)

ただいまの報告について、何か質問ございませんか。

(岩沢委員)

当日は、コスポで西区のふゆまつりがあるのです。バッティングしているのです。私どもは地元ですから、旗を立てたりして動けないということがあります。これだけご理解いただきたいと思えます。

(下川会長)

ほかに何かございませんか。よろしいでしょうか。次に進めさせていただきます。

< 2 議事 (2) 自治協議会の情報共有方法について >

(下川会長)

それでは、議事の2番目、自治協議会の情報共有方法についてということでございます。この趣旨は、新潟市自治協議会運営方針にうたわれているとおりに、自治協議会の委員は地域の代表なので、自治協議会での議論を団体へ持ち帰り、活動に活かすという役割が明文化されております。皆さんも自治協議会運営方針というこういう冊子を見たことがあると思いますけれども、この中でうたわれております。したがって、皆さんのところでこういうものがどのように活かされているのかということも、いろいろ考えなくてはいけない時期にきているのではないかと思います。

ちなみに私のところのコミュニティ協議会ではどんなことをやっているかといいますと、まず毎月、月1回の役員会議がありまして、そのほかに年3回、ブロック会議とも称して、私のところは33自治会あるのですけれども、4ブロックに分けて自治会長と私どもとの意見交換会。毎回、テーマは設けているのですけれども、その際に私たちの連絡事項として、この自治協議会の活動は、こんなことをテーマにしてやっていますよと。経過状況、その他をお話ししているという状況ですけれども、7期も始まってまもなく1年になりますけれども、この自治協議会での議論の内容をどう伝えていくか。他委員との意見交換を参考にできるところから選出団体やお知り合いの方に、自治協議会での議論の内容を広めてもらいたいと考えています。皆さんの現状や、どのように共有しているかを委員同士で話し合ってください期間を設けたいと考えております。

ここからの進行は、副会長である郷副会長から進行をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いしたいと思います。

(郷副会長)

では、これから自治協議会の情報共有方法ということについて、皆さんとワークショップ形式で考えていきたいと思っております。今ほど、下川会長からもお話しありましたが、この会は、皆さん個人でというよりも、各まち協、コミ協の代表とか、所属団体、民協の代表とかという形で出ていらっしゃる方。そして、また3号委員や公募委員のように、個人として出ていらっしゃる方が集まっている会議です。この自治協議会というのは、行政と市民、区民との協働の要ということで話し合いをしていますので、私たちがここでたくさんの情報をもたらしたことは、その所属の皆さんに共有していかなければならない。そういった役目を私たちは持っているということなのですが、それがどのように広がっていったのかなど。この前段の教育ミーティングのときにも、なかなか保護者の方が地域の状況が分からない。コミュニティ協議会さえも分からない。自治会の活動さえもよく分からない。ましてやきつと自治協議会などという言葉が、分かっていないのではないかと、前段の会と一緒に

参加して思いました。私たちは、例えば、もう年が変わりましたが、一昨年になるでしょうか。大雪をとっかかりとして、支え合いのしくみということについて、かなり時間をかけてみんなで話し合いをしてきました。そして、今すぐにはできるこんなアイデア。少し長期的になるけれども、こんなアイデア。そういったこともこの中ではすごくたくさん話されて、結果としてまとめのペーパーも頂いています。それが、果たして自治会やコミュニティ協議会の中にどのくらい活かされているのかな。やはりここで話されたことが、私たちふだんの生活の中に活かしていかなければ、ここでの時間の共有というものも、有意義なものにならないのではないかとということで、今日はどのように皆さんが周りの人に、例えば3号委員の方や、公募委員の方は、ここで話されたことを自分の周りの方に、どんな機会を持って話をしているかなど、そんなことも大事なことで、団体の皆さん、そしてご自身の個人的な周りの方に伝えているということ話し合うことによって、こんな伝え方もあったのかな、こうやって広めていけるなという、また新たなアイデアが生まれてくるのかなと思って、この時間いただいて、皆さんで話し合いをしようと思っています。

時間が40分程度なので、早速、作業をしていきたいと思っています。各グループにあらかじめ進行役という方は決まっていますか。各班の進行役の方、青いポストイットがある方が進行役なのだそうです。自覚をしてもらうために手を挙げてください。ありがとうございます。その方々が進行ということで、まず最初に今、事務局のほうからポストイットとペンと模造紙が配付されていますが、まず個人作業でポストイットに自分はどんな感じで伝えているよということをいろいろな場面があると思うので、いろいろな方法をまずはたくさん書いてください。班の中で協力し合って、まずペンを配る、そしてポストイットを配る。そんなところから始めますが、なるべく各時間を設けたいので、たっただけと配っていたらとありがたいです。私たちも入りましょう。

(検討作業)

(郷副会長)

皆さん、話は盛り上がっていますが、時間になりました。

では、各班、どんなことが話されたか、全体共有していきたいと思います。4班ありますので、順番に5分程度、発表してもらおうと思っています。いつもAからなので、D班からいききたいと思います。お願いします。だれが言ってもいいです。模造紙を持って、ここにたってもらおうということだそうです。

(五十嵐委員)

D班です。私たちは、皆さんどこでこの自治協議会のことを発信していますかということで、今、課題を出されたとおりに皆さんでやっていきました。皆さん母体がコミュニティ協

議会であったり、PTAの代表だったりということで、各選出母体の中でお話しするというようなお話は出ておりました。

(佐野委員)

皆様、報告することに関しては、大変努力をしていらっしゃるというお話は伺いました。また、大変苦勞もなさっていると。その苦勞していらっしゃるということは、やはり数少ない機会であったり、例えばコミュニティ協議会の会議、三役会、部会、理事会に内容を部会ごとに選別して発表される苦勞話がありました。また、不定期報告。定期的な会を開催しているわけではないので、タイミング的に不定期になってしまうわけですね。そうしますとまた報告事項の選別も難しいということです。努力はしているが・・・というのは、やはり身近なことは皆さんには伝えやすい。例えば、雪かきであるとか、生活に密着していることは大変伝えやすいのですが、この会議の中で出てきます報告事項を、経過報告のようなものをどのように伝えるかという結果ではないので、こういう経過ですよというように伝えてもしょうがないというわけではないのでしょうけれども、伝えるのは難しいというご意見。または報告するときに、例えば、この会議の資料を全部コピーする。それもまた皆様が読んでくださらないので、それをコンパクトにまとめたりするのも大変であるとか、なかなかそういう中で具体的な報告もしづらいですね。それが難しいのではないかとということでした。

あとは皆さん、伝えている場所としては、ほとんど出身母体はコミュニティ協議会の方が多いので、コミュニティ協議会がメインです。あとは中学校のPTAの会。連合会なので、単体の小新中学校でした。中学校のPTAの理事会、民生委員・児童委員の月1回の定例会。あとは身の回りということで、支援センターの皆さんにとりか、月1回のスタッフ会議。あとは家族との会話の中で、そのようなことを話題にする。それから、スポーツ関連団体に属しているので、その場でスポーツに関することは報告しやすいのですが、それ以外、出身母体に関連する議題と離れているような関連団体であるとなかなか報告しづらいと。あとは、できれば、身の回りの市民の会であっても、かみ砕いて報告できればいいなという希望という感じでしょうか。最終的に、皆様の中で一番盛り上がったのが、活動が以前に比べて公募型の事業が多くなりました。というところで、市民に密着するという部分ではいいと思うのですが、私たちが自らの手で作り出すという場が減ってしまったのです。そうしますと、やはり報告がしづらいと。自分たちがやりましたよと、例えば、防災カードを全部、自分たちの手で作りましたよというような報告がしづらくなったということが、一番のネックだなという話でした。補足はありますでしょうか。

(五十嵐委員)

ないですけども、皆さんが同様に、非常にこの会議の全体の中でどこを報告するかということは、その方のところの事情に合わせて、選別して出すしかないのだということで、す

べてを報告する場の中で全部を出すということは難しいのだということが、皆さんの中から出されたことだったなと思います。

(郷副会長)

ありがとうございました。とてもいい発表でした。

次は、C班、話し合いがとても盛り上がっているC班。

(高田委員)

C班です。一応、うちのC班が7名で、コミュニティ協議会の会長が3名、商工会が1名、それと異業種が1名と社会福祉協議会やふれあいといった方がおられて、そういう中で意見は、簡単に地域というものと自治会、産業、その他と分けてみたのですけれども、そうするとやはりコミュニティ協議会でどうやっていくかということ、やはり皆さん、同じことを言ったのですけれども、それぞれこの会議が終わった後、その後にある三役会、役員会、理事会等で必ず報告していると。そういう中で討議をしたりしていると。自治会に対してはどうしているかということ、必ず自治会の会長会とか、理事会であつたりとか、そういったところに報告して、できるだけ徹底させて地域と、あとは逆にその中で役員会などで揉んだ中で、必要なことは連絡すると。必要ないことまでいう必要ないだろうと。そのように分けている地域があるということが出ました。産業商工会とかどうかということ、その中で出た意見として、今までの商工会のほうに、こういう出た報告はしなければだめかと聞いても、必要なこと以外はいいよと言われていたと。だから、あまり連絡しなかったと。でも、ただたまたま言われた、この2月7日に黒埼商工会の女子部の新年会があると。そういうときには、今回、区長にも出ていただいて、そういうところでもう少し西区とか、いろいろ説明していただいたりしながら啓もう活動を一気に広げていきたいという要望が強くありましたので、区長お願いします。

(区 長)

承知しました。

(高田委員)

それとPTAはどうかということ、やはり一人PTAの会長があえて言われたのが、PTAの総会自体が年1回しかない。だから、どうしてもなかなかそこまではいかない。ただ、それでもやはり役員会だとか、そういういろいろなときには、機会があつて必要なことは伝えていきますけれども、なかなか伝わりにくい。社会福祉協議会はどうかということ、理事会自体も少ないですし、そういう中では同じ状況だと。ただ、社会福祉協議会の理事自体、ここに参加されている方も多いので、そういう部分では、十分、共通認識は持っているのではないかと。ただ、その中で出たのが、一般の周りに住んでいる人たちが、それこそ自治協議会って何ということ、いまだにあつて、それをどうご理解いただくことが難しい

かと。そのうち、また逆に私が言ったのですけれども、私は地域ですと。正直、コミュニティ協議会頼みがまだ払拭できていないと。だから、やはりそういう意味で、そういうことということもやっていかないと、せっかくここで得た情報であったり、論議したことがなかなか地域の方々に伝わらないのだなということをみんなで話し合っていました。

(郷副会長)

とても盛り上がっていた成果が出ました。ありがとうございました。
次は、B班お願いします。

(山賀委員)

まず、そもそも自治協議会のことは知らなかったというか、この委員になってから、どういう団体でどういうことをやっているのかということに参加して分かったということで、その前としてはそもそもコミュニティ協議会で、そんなに自治協議会のことを聞いていないということで引き継がれていなかったということがありました。ただ、参加したら分かったし、いい事業もいろいろやっているの、ことあるごとに話しているというようなことでした。ですから、前段として、もっとよく知ってもらわなければいけないということが、お話の中で出てきました。お伝えされている方々は、コミ協、まち協の場合は、役員会で報告しているということがありまして、ただ毎月、報告しているという方もいらっしゃいますけれども、開催が不定期なので、そのときにしか話せないということです。地区の役員には総会で伝えているとか、毎月、報告されている方も、報告はするのだけれども、そこから先に広がっているかどうかということは微妙というところでした。

あとはさまざまな団体にいらっしゃる方々で、小学校のボランティアのときに伝えているとか、訪問介護先でとか、私もですが団体の会議でとかということがありますし、資料を事務所に置いて、見られるようにしておくとかされている方もいました。家族の中で、特に災害のことなどを話したり、あとはテーマが関係しそうな人たちとの立ち話や雑談の中で話す、伝えているというような話でした。なかなかそれぞれの地区で事情も違ったりしますし、いろいろな話題がこの会議の中で出てきているので、地域に帰って伝えてほしいと思うこと、伝えたいことというのが、明確になっていると伝えやすいのになという意見が出てきました。それから、いろいろな検討をしているのですけれども、これは私も言ったのですけれども、この自治協議会に参加している団体、いろいろな団体もいて、人もいて、地域がそれぞれなので、そこでのいろいろ皆さんがやっていることなどをこの会議の中で共有すると学びになって、地域に帰っても話そうという気にもなるのではないかと思ったところです。

(郷副会長)

ありがとうございました。
では、いよいよ最後、A班、お願いします。

(寺瀬委員)

A班です。ABCの順番でいくから一番最初だねと、みんなで話をしていたら、最後になりました。

各班の皆さんとほぼ同じような話が出ていました。コミ協、ふれ協、まち協という感じで、1号委員で出てきている中では、この会議概要を全部コピーして、月1の会議で役員の皆さんに配付しているという状況です。配付しながら、簡単に説明するという人。さらには、会議概要のほかに、自分がこうだと思うところもつけ加えた状況で出しているという方もいらっしゃいました。地域が広いので、それぞれこれはうちのところでは必要だなと思うことに関しては、きちんと報告をしているという声も多くありました。そのほかに1号委員の方たちからすると、それぞれ自分が出ている会議のところで、必要に応じて報告している。また、公募委員の方がいらしたのですが、この西区の様子をご自分がサークル活動のような形で中央区に加わっているの、そここのところでも少し関係があったときにはお話をしてくださっているそうです。県外に住む家族にも、こんな話があったのだよと、関係するような話しだったりすると、そんな話をして、情報共有をして、うちではこんなだよというような、行ったり来たりの話があるということで、なるほどなと思いました。あと参加している皆さんは、それぞれ出身母体のほかに、身近な皆さんに話すように、関係のある話は伝えているよというような声がありました。この会が、先ほども出ていましたけれども、こちらからの会議の概要をお知らせするというだけでなく、地元でこんな話が出たよということをここに持ち帰って話す機会があったりすると、もっと広がるのだよねとか、こうなったらもう少し盛り上がるのかもしれないねというような声が出ていたり、この会議が、これからこの自治協議会というのは、どういうことをねらっていくのだろうと。そここのところもそろそろ知りたいよねというような、もう少し突っ込んだ様子が分かるとうれしいねという話が出ていました。防災士もいらっしゃいますので、そこでは危険ということに関しては、ここで出るいろいろな話はもちろん向こうに行って伝えているよと。伝えながら、ここで学んだことを入れながらの学習会や研修会、防災にかかわっているという声も出ておりました。そのほか落ちがありましたらマイクを回しますので、いかがでしょうか。よろしいですか。

(郷副会長)

皆さん、大変活発な意見交換、また発表をありがとうございました。いろいろな方の話を聞いて共有するところ。同じだなと感じたり、やはり自治協議会のこれから、どのように動いていくのだろうという先のことが意見として出てきたり、かなり自治協議会委員の家族はお得だなと感じました。けっこう家族にいろいろなことを伝えていて、危険キャッチとか、防災とか、子育てとか、これは自治協議会委員のお得感かなということも感じました。また、地域がみんな西区ひとくくりまとまっても、それぞれの課題が違うので、なかなか地域での課題がここにあがってこないのではないかという意見もありましたが、けっこう部会

のときには、それぞれの方がそれぞれの思いを地域の様子なども話しているので、部会とこの本会議をうまく使いながら、よりよい自治協議会になっていけるように、私たち一人ひとりが今、ここで話したことで再確認ができたのではないかと思います。どうもありがとうございました。

(下川会長)

皆さん、ご苦労さまでございました。活発なご議論いただきまして、ありがとうございます。

やはりこういうグループワークするということは、非常に意見が出しやすいといえますか、活発な意見が問題提起されますし、そういう点ではよかったなと思います。私たちも自治協議会の会長・副会長ということになっていますが、私たちはこれからの自治協議会がどうあるべきかとしょっちゅう悩んでいるのですけれども、悩んでいる一番の基本は、どうやって皆さんのところにフィードバックして、そのときに出了意見がどのようにして私たちにフィードバックしてくるのか。そういうことの中で、本来、課題が出てきて、その課題を解決するということは、本当の自治協議会の在り方ではないかと考えております。どちらかというと、与えられた課題でやるのではなくて、こういうフィードバックしたことによる反応を見て、その反応の中でいろいろなものを取り上げていくということが、今後の自治協議会の在り方ではないかと常々私は考えていましたので、今回、参考になる大変いい意見がたくさん出ましたので、ぜひこれをこの模造紙に書いただけではなくて、事務局にお願いして、それをまとめてもらおうと。そして、それをまた皆さんにフィードバックするというようなことをしていきたいと思っておりますので、どうもありがとうございました。

< 4 その他 >

(下川会長)

それでは、今日の次第の最後ですけれども、その他です。委員の皆様から何か今日、お話をしたいということがございましたら、お話をしてください。何かこういうお知らせをしたいとか、いろいろありましたら。ありませんか。

それでは、事務局から何か連絡はございませんでしょうか。

(伊藤地域課長補佐)

事務局からの連絡をさせていただきます。まずは、坂井輪図書館長から連絡がございますので、お願いいたします。

(伊藤坂井輪図書館長)

坂井輪図書館長の伊藤です。日ごろより、西区の図書館運営に関しまして、ご理解、ご協力を頂き、ありがとうございます。

今回、資料は特にお配りしておりませんが、西区所管の地区図書室の運用変更について、お知らせさせていただきたいと思います。

西区には、坂井輪図書館のほかに内野、黒埼、三つのオンライン館がありまして、そのほかに今、五つの小さな図書室がございます。そこでは、現在、4年前からですが、それぞれの施設管理者の協力のもと、職員が不在時にも貸出時間を拡大しまして、開いている時間はセルフ貸出方式ということで、図書室の中の本をご利用いただいております。また、図書室によりまして、週2回から4回程度、職員を配置しまして、その時間に資料整理ですとか、利用者登録、また図書室にない本の予約処理などを行ってまいりました。

このたび、金曜日に職員を配置していたところがあるのですが、今年の2月から五つの地区図書室のうち三つ、金曜日、配置していたところについて、職員の配置を取りやめることとなりました。この件につきましては、非常に利用実態に合わせて、最も利用の少ないところで設定したところがございます。図書室の本の利用につきましては、これまでどおり図書室の中であれば、セルフ貸出方式にて利用することはできます。

また、これらの周知といたしまして、それぞれの館と図書室の中にお知らせのポスターを掲示しまして、また、施設管理者のほうにもお知らせしたところがございます。また、これから2月2日の区だよりにおきまして掲載して、地域の皆様に広くお知らせすることとなっております。今後とも西区の図書館の運営に関しまして、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

以上をもちまして、私の説明を終えさせていただきます。

(岩沢委員)

今の3か所というのはどこですか。

(伊藤坂井輪図書館長)

小針地区図書室と青山地区図書室、西内野地区図書室です。

(下川会長)

よろしいでしょうか。岩沢委員いいですか。

(岩沢委員)

はい。

(伊藤地域課長補佐)

では、引き続き、地域課からご連絡させていただきたいと思います。

次回会議の日程についてご連絡させていただきます。本日、配付資料としてお配りしましたお手元のA4資料「令和元年度西区自治協議会開催予定」をご覧ください。

次回、第11回自治協議会は、2月28日（金）午後3時からとなります。会場は変わらず西区役所健康センター棟3階大会議室で行います。会議の議題等、詳細につきましては、運営会議と調整させていただきまして、あらためて皆様方にお知らせさせていただきます。

次に、3月になりますが、ご覧いただいている資料に赤字で表記させていただいております。当初3月23日（月）でご案内しておりましたが、区自治協議会と市長との懇談会を自治協議会と同日に開催させていただくため、3月25日（水）の午後2時と変更させていただいております。市長との懇談会は、同日開催となりますので、自治協議会の後、15時半からを予定しております。自治協議会と市長との懇談会のご案内については、改めてさせていただきますので、皆様方、ご予定の変更等、何卒よろしくお願いいたします。

以上、日程につきましては、2月以降の部会の開催もあわせてお知らせさせていただきますので、後ほどご覧ください。

そのほか、本日、区自治協議会広報紙及びコミュニティ協議会広報紙等を配付させていただきましたので、後ほどご覧ください。事務局からは以上となります。

（下川会長）

ありがとうございました。何か言い忘れていることはありませんか。大丈夫ですか。

それでは、これで令和元年度第10回西区自治協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

（終 了）